平成 25 年度 第 2 回備前市公共交通会議 議事概要

1. 日時：平成 26 年 2 月 24 日（月） 14 時 30 分～16 時 00 分
2. 場所：備前市役所 3F 大会議室
3. 出席者：（敬称略）

（委員）

- 会長 吉 村 武 司（市長）
副会長 宇治橋 昭 彦（市自治会連絡協議会）
橋 本 成 仁（岡山大学大学院環境生命科学研究科 学識経験者）
高 橋 昌 弘（備前市まちづくり部）
岩 崎 透（備前市教育委員会）
藤 原 義 和（日生運輸株式会社）※大本委員代理
香 西 正 巳（県タクシー協会和気支部）
藤 原 真（日生運輸株式会社）
宇治橋 昭 彦（宇野自動車株式会社）
藤 澤 健太郎（市自治会連絡協議会）
更 谷 暢 久（市自治会連絡協議会）
藤 原 知 明（市自治会連絡協議会）
三 宅 陽（市老人クラブ連合会）
井 上 邦 允（市老人クラブ連合会）
寺 見 史 朗（市老人クラブ連合会）
渡 辺 孝（JR 西日本岡山支社）※石原委員代理

（専門員）

- 平 賀 哲 二（中国運輸局岡山運輸支局首席運輸企画専門官）
秋 本 理 恵（中国運輸局岡山運輸支局運輸企画専門官）
保 田 邦 昭（備前警察署交通課企画係長）
四 条 雅 之（岡山県県民生活交通課交通政策班主幹）
田 中 信 彦（岡山県備前県民局東備地域建設課主任）

（事務局）

まちづくり課 4 名、教育委員会 1 名

（オブザーバー）

企画政策課 1 名、介護福祉課 1 名

（その他）

調査委託業者 2 名

4. 欠席者：（敬称略）

（委員）

- 宇 野 泰 正（宇野自動車株式会社）
浄 原 法 生（伊里小学校 P T A）
井 口 恭 子（吉永小学校 P T A）
雄 島 仁（大生汽船株式会社）
西 滝 道 雄（瀬戸内観光汽船株式会社）

5. 傍聴人：4 名（市民）1 名（報道）

6. 議事

- 開会
- あいさつ
- 出席者の紹介
- 協議事項

備前市地域公共交通計画の改訂について

- 報告事項
- 備前市地域公共交通計画の取り組み状況等について
- その他
- 閉会

◎協議事項

備前市地域公共交通計画の改訂について

《事務局》

- ・改訂案について新旧対照表と合わせ事務局より説明

市長
委員	地域公共交通計画の改訂についてご意見があればお願いします。
25 ページの目標値の修正。
新しい言葉として「ルートバス」という言葉がでてきている。公共交通の計画書の中にルートバスのイメージをもう少し書いてもいいのではないか。ルートバスの定義がないのでわかりにくい。具体的に、どういうイメージでどこどこのサービスを提供するというようなことがわかれば良いと思う。
専門員	21 ページに第 2 次備前市総合計画の取り組み内容がある。総合計画の中で公共交通の利用促進について、交通空白地域の取り組みがあったと思うが、どうなのか。
事務局
委員	記載漏れのため修正する。
これも総合計画から出てきた言葉だが、コンパクトシティの実現やまちの活性化に資する公共交通ということで、現実にコンパクトシティを実現する上での時間についてだが、交通はバスが走ればそれでよいが、まちの方がコンパクトになっていないということがあると思う。時間差が出てくるのが気になる。最初の 4 年間でまちづくりはどこまでできていて、それに対してどういう風にしていこうとしているのか。10 年先に向けて第 2 段階でどういう風に考えていくのか。向かう方向としては良いと思うが、交通とまちづくりのタイムラグについて、時間的な観点が描ききれず、読み取りにくい。実際にお店に協力していただいて買い物を増やすとか、お店自体を増やすとか、そうしたまちづくりの計画とどのように連携していくか、都市計画がどのように動いているかということ、4 年後どのような姿を目指しているのかということ、できれば巻末にでも示してほしい。
市長	第 1 次備前市総合計画の見直しの問題点と、第 2 次備前市総合計画が策定された経緯について、事務局から説明をお願いします。
課長	合併当時に策定した備前市総合計画は、合併前のそれぞれの市町がやっていた既存の事業を摺合せしながらそのまま引き継いでいくようなイメージであった。その中で、8 年が経過し、このままのまちづくりでは問題があり、合併後のひとつの新しい備前市をつくっていかうという考えのもとで、教育のまちという将来像をつくった。そういった中で、新しい市長が誕生し、市長のまちづくりの方針の中にコンパクトシティがある。コンパクトシティは市全体ではなくそれぞれの地域

でそれぞれの生活が成り立つようなものをイメージされておられました。その中で公共交通もまちづくりの重要なインフラでありますからそれをどういう風に結び付けていくかとういことになろうかと思う。私見も入りますが、まちづくりを進めていく中で、交通手段と公共施設の再配置というものを一緒に考えていく必要があるのではないかとも思う。ワンストップ型の目的地を整備すれば、交通やまちづくりという点でもより合理的なまちづくりになると思います。

市長 見直しは何年後にするのか。

課長 平成 25 年度から 10 年間の構想である。市長の任期にあわせて、4 年で基本計画を見直すこととしている。基本構想の期間はきりの良い 10 年としているが、実質的には構想を 8 年で見直すこととしている。

委員 たとえば、指標③「バスを買いもの目的で利用する人の割合」、指標④「バス利用者のよく利用する買い物先が備前市内のみである割合」について、バスをいくらがんばってもそうそう上がるものではない可能性がある。お店に魅力があって初めてそこに行こうとする人が増えてくる。我々がこの会議で決められるのは、せいぜい、バスの時間帯をいい時間帯に変えてあげることであるとかバス停の場所を変えてあげるとか、乗り場でリラックスして待てるようにするとか交通に関することである。お店をなんとかするとか、魅力を向上させるということは、なかなかこの計画だけでは書けない部分が多い。つまり、横で進められる計画がどのような状況かということに合わせて示すことで、確証がもてる部分だと思う。たとえば市街地の活性化とか、総合計画でもいくつかあると思うのですが。我々は、4 年後に指標に基づいてこの計画を評価する。こうした指標があるのならば、これを達成する（担保する）ような、横の計画のことについても、参考資料として掲載してほしいと思う。

市長 公共交通とまちづくり、定住化は大変リンクしている。まちづくりと交通がどのように変わるのか、商店街の衰退なども進んでいる。今年の 10 月には岡山駅前にイオンが開店する予定。おそらく姫路、加古川くらいまでがマーケットのターゲットになると考えるが、通過地点となる備前市はどうか、ストロー現象が起こることを危惧している。この中で、まちづくりと交通をリンクさせることは重要である。また、少子高齢化も進んでいる。法律の動きでも、4 月から備前市全域が過疎地域に指定されると聞いている。ここから脱却するのか、過疎地域として補助を受けながらまちづくりをしていくのか、住民とも議論しながら進めていかなければならないと思う。来年の 4 月には架橋が供用開始となる。諸島の定期船の問題、頭島までの公共交通をどうするかという問題もあり、喫緊の課題が山積している。そうした中で、第 2 次備前市総合計画を前市長の中で見直そうという話になった。それを受けて、下位計画である備前市地域公共交通計画を見直している。皆さまにもたくさん議論していただきご意見もいただきたい。アドバイスを受けながら実態に即した問題点を一つ一つ解決していかなければならない。その中には、市の政策もあるでしょう。あるいはいろんな予算をつけてですね、たとえば、公設民営化をより進めるということもある。一昨年は、県の西の方で大きなバス会社が事業廃止するということになった。民間企業の限界もある。公設民営という大きな流れを、予算を担保しながら、JR をしっかり結ぶ南北軸がなければ、なかなかひとつの備前市になれないのではないかとこのことを危惧している。

委員

19 ページの (3) の周辺市町に拡散した移動の表現がわかりにくい。

橋本先生が言われるように、上位計画に基づき公共交通どのようにリンクさせるか具体性が見えてこない。もうひとつ言えば、上位計画の具体性がイメージできない。上位計画の中のコンパクトシティという言葉のイメージと、そのコンパクトシティの具体的な、たとえばここにこういう施設、建物を作ってそこにアクセスするというようなことがイメージされて、交通対策を行うということならば理解できる。改訂がゴールではない。今備前市のまちづくりも変わろうとしている。それにより、交通もガラッと変わってくるかもしれない。その大きなプランが具体性を持ちだしたら、新しい公共交通の体制もまた具体性が見えてくると思う。もう一つ新しいイメージの話と、地域の実情がガラガラ変わっているという点。それは高齢化と少子化。地域が大きく変わっていけば、これまで地域の生活の足を確保してほしいといった声さえも聞こえてこなくなる可能性がある時代が来る。それが3年度か5年後か10年後かはわからないが、急激な変化だと思う。そういう新しいあるいは想像も絶するような時代が来るのに伴って公共交通は最後の砦であるため、それをどういう風に維持していくか、いま、一生懸命つくりあげた評価指標についてもガラッと変わることもさえる。つまりそういうことから言えば46 ページの評価と見直しにあるように、適宜柔軟に見直しすることが重要だと思う。不断の見直しを行っていくということが、これからの公共交通計画では必要。1度作ったものがこれが絶対ですよというものではない。上位計画に合わせた見直しをしました。この作業は大変な作業だと思いますが、それだけでなく、地域住民と色々な意見を交わしながら、新しく計画を見直しをしていくというこの作業こそが求められていることだと思う。それをぜひこれからもやっていただきたい。

市長

ありがとうございます。常に、市民生活や各種計画が単年度ごとにどうではなく、常に見直していくということは大切だと思う。またそのスピードも問われていると思う。市民とも協議しながら、具体的な施策とその実行、検証、財政的な裏付け、市民との合意形成が必要になると思う。

委員

46 ページのページ番号について修正してください。計画のタイミングと、いつ次の計画をつくるのかということを加筆すれば良いと思う。

委員

備前市が全部過疎地域になるということは非常に問題だと思う。コンパクトシティやまちづくりなど、いろいろなイメージが変わってくる。住民がここに住み続けたい、ここで生活して良かったなと思う時に、交通が重要な役割を果たしていくようになると思う。では、備前市のまちづくりはどうしていくことが良いのか。名古屋、東京のまねをしたってダメというのはみなさんよく解っておられる。備前市の身の丈にあって、備前市に住み続けて良かったと思えるまちを、それぞれの立場で考えていく。交通体系を考えることによって、まちが見えてくるのではないだろうかと思いました。また議論がこの会議だけで終わるんじゃなくて、コンパクトシティ、定住化とは何かということについても議論を横に広げ、自治会長として地域に帰ってお話ができるようにしていきたいと思う。

市長

ほかにご意見等ございませんか。他になれば各委員の皆さまのご提言、ご示唆等を踏まえて、パブリックコメントを実施し、また委員の皆さまからも直接ご意見をお聞きしたいと思います。今回の改訂案を基本として、作成させていただければと思う。よろしいでしょうか。

委員 よろしいとの声

市長 ありがとうございます。
ひとつの備前市として一体になる。そのまちづくりの中で具体的に公共交通が役割を果たす。通学バスの問題。市営バスの問題。バス会社、タクシー会社、定期船の会社等民間事業者の問題。さまざまな問題を総合的に具体的手法で解決していかないといけないと考えております。

◎報告事項

備前市地域公共交通計画の取り組み状況等について
《事務局》

それでは、備前市地域公共交通計画の平成 25 年度取り組み状況についてご報告申し上げます。もう一度、交通計画の 45 ページの事業実施主体、スケジュールの表をお開きください。平成 25 年度より取り組むこととしておりました②の各地域のまちづくりを支える公共交通（支線）については、神根・三国地区、三石の五石地区で、昨年 4 月～5 月にかけて意見交換を実施しております。意見交換では、既存バス路線に対する要望や、今後の再編に向けてのご意見等を伺っております。三石の五石地区からは、バス停から集落が離れており、既存の路線バスが使いにくい方がいるということで、バスの乗り入れ要望が上がっておりますが、地区へアクセスする道路幅が狭く車の離合が出来ない等の問題点があり、事業者や地区代表者と継続して協議を行っております。次に、③のみんなで支える公共交通の仕組みづくりですが、民間活力による公共交通支援の仕組みづくりについては、備前・日生・吉永の各市民病院やマルナカ穂浪店、イオン赤穂店への乗り入れ等に伴うバス停の管理やバスの一時待機場所の提供など、官民協働で取り組んでおります。また JR 赤穂線沿線地域活性化協議会や JR 赤穂線の利用を促進する会や JR さんなどと協働した利用促進 PR 等の取り組みも継続しております。啓発のぼりを市庁舎玄関に掲出してしておりますので、後程ご覧いただければと思います。モビリティマネジメントについては、広報などによる啓蒙、市役所で毎週水曜日の公共交通利用の取り組みを継続して実施しております。またモビリティマネジメント用のちらしを現在作成しております。④利用しやすい公共交通の環境整備として、「わかりやすい情報ツールの作成」に関しては、現在バスマップを作成しております。バス車内環境の整備では、現在日生線において時刻表を作成しております。またバス車内にもバスマップを掲示する予定です。⑤離島生活を支える交通施策についてですが、大多府・鴻島の持続可能な定期船の在り方と頭島・鹿久居島の新たな公共交通サービスの検討について、国、県、事業者などと継続して協議を行っております。以前にもご報告させていただきましたが、大多府・鴻島の島民の方々は、これまでどおり本土への直行便の就航を強く願っておられます。⑥元気な備前市に向けた公共交通の活用施策についてですが、お手元の資料、地域行事やイベントとの連携ということで、かきまつり等で JR 利用者特典イベント、地域の特産品等が当たる様なイベントなどを実施しております。

委員 五石については、道路の拡幅をするということなのか。

事務局 現在は道路の拡幅は考えていない。バスの乗り入れについてできるのかどうかを検討している。

委員 道路を拡幅しなければ難しいのではないか。

事務局 道路の拡幅までは考えていない。バスの小型化や地元の方でもご協力いただいて、

退避所などつくることができれば、そこを活用することも考えられる。まだ、具体的には決まっていないため、今後の検討になると思う。

委員 わかりました。よろしくをお願いします。

◎その他

《事務局》

2点ほどご報告いたします。

1点目は市営バスの運賃改定について、2点目は圏域バスについてであります。続けて報告させていただきます。まず、市営バスの運賃改定についてですが、お手元の資料「備前市通学バスに関する条例」をご覧ください。市町村有償運送で運行しております伊部小学校便及び備前中学校便についてであります。本年4月からの消費税アップに際しまして月額運賃の値上げを実施します。(条例第4条を改正)

(1) 3年以上の伊部小学校児童 月額1,310円から月額1,340円へ

(2) 中学校生徒 月額3,670円から月額3,770円へ

なお、その運賃につきましては、「使用料の特例」により、平成30年3月31日まで全額免除としておりますので、特例が解除されるまでは、利用者に対しての影響はございません。その他の市営バスの和意谷線及び三国東西線<市町村有償旅客運送>や市内を運行する備前バスさんの路線は、今回の消費税UPに際して、4月からの運賃の値上げはございません。又、市内を運行する宇野バスさんの路線バス運賃についても今年4月からの値上げの予定はないと伺っております。

次に圏域バスについてついてありますが、

東備西播定住自立圏で運行する「圏域バス」についてご報告させていただきます。「圏域バス」の本格運行実施決定については、昨年開催した会議において報告させていただいたとおりですが、この度バスの愛称が公募により「ていじゅうろう」に決定し、新しい小型低床バスを購入、予定どおり3月1日から運行することになりましたので報告させていただきます。お手元に時刻表をお配り致しております。バスの色は薄緑色で、バスには、これも公募により決定したロゴマークが描かれております。

3月から、備前から赤穂間の備前ルートは、イオン赤穂店や、赤穂市民病院の入口までバスを乗り入れることとなります。時刻表についてもその関係でその区間のみ2分程度の変更を行っています。上郡ルートについては、赤穂中央病院へのルートを新設しそれに伴い時刻も改正しております。今後も誰もが親しみを持って利用できる地域の乗り物となるよう、事業者とともに協力しながら運行をしてみたいです。ただ運行を継続していくためには、皆様に利用していただくということが一番重要となります。特に沿線地域にお住まいの方におかれましては、普段はバスを利用されない方も、買い物やイベント、観光地めぐり等に利用していただくなど、市域を超えての移動、市域内での移動に積極的にご活用ください。

市長 橋本先生、総括があればお願いします。

委員 先ほど、委員さんからも指摘いただいたが、計画が決まってこれでおしまいではない。特に、これから先は、本日こちらに出席いただいている市民代表の委員さんの役割が非常に重要になってくる。地域に帰って今日の話も周知していただきたいし、乗ってくれる人をどんどん見つけていただきたい。また、今回の計画はまちづくりという視点が入っておりましたので、まさに「まちづくり課」として役割は非常に大きい。単なる公共交通の計画ではなくなったということですので、商工関係の話も

含めて、スピード感もってまちづくりを進めていただければと思います。

市長

本日は、慎重審議ありがとうございました。この公共交通計画が市民にとって生きたものになるよう、まずは多くの若い人を含めて公共交通を利用していただくということが大切。一つの備前となり公共交通の利用が活性化すれば市の財政投入もでき、政策にも膨らみをもたせることも可能となる。今後とも市の公共交通にしまして大所高所からご指導をお願いいたしまして今日の会議を閉じたいと思います。ありがとうございました。

了